

第 1 回京都市未来共創チーム会議  
議事録

日 時：令和 6 年 1 0 月 3 1 日（木） 1 3：0 0～1 5：1 0

会 場：Question 7 階 Creative Commons 1/2 スペース

出席者：

|        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 安野 貴博  | 合同会社機械経営 CEO/AI エンジニア/起業家/SF 作家      |
| 池坊 専宗  | 華道家・写真家                              |
| 伊住 禮次郎 | 茶道総合資料館副館長                           |
| 大井 葉月  | 京都市職員（東山区役所）                         |
| 大竹 莉瑚  | 市民公募委員                               |
| 杉田 真理子 | 一般社団法人 for Cities 共同代表/都市デザイナー       |
| 田口 成人  | 京都市職員（環境政策局）                         |
| 仲田 匡志  | 株式会 SOU 代表取締役/U35-KYOTO プロジェクトマネージャー |
| 三川 夏代  | 株式会社メルカリ 『mercari R4D』               |

以上 1 0 名  
(五十音順、敬称略)

## 1 開会

### 西田都市経営戦略監

大変お忙しい中、未来共創チーム会議に御出席いただき、感謝申し上げます。京都の未来のビジョンを作るために、何を大事にすべきかを考える重要な会議である。25年先の未来ということで、ちょうど25年前に自分が何をしていたかと考えると、30歳を過ぎた頃で、まさに未来共創チームの皆さまと同じぐらいの年齢であった。

この25年間で非常に多くの物事が変化した。そして、これから25年先も大きな変化が起こり、最も大きく変わるのは人々の価値観ではないかと考える。その新しい価値観を構成する重要な要素が京都には数多くあり、それらを見つめ直す中で、京都の新しいビジョンを磨き上げていきたいと考えている。

このようにそれぞれの分野で御活躍されている皆さまに、25年の周期でビジョンを考えていく場にお集まりいただいたことに御縁を感じる。会議は全7回を予定しているが、それ以外にも皆さまと様々な意見交換をさせていただき、京都のビジョンを、京都から世界に向けて新しい価値を提案していくものにしたいと考えている。どうぞよろしくお願いする。

### 司会

続いて、本日御出席者の委員の皆さまを紹介させていただく。東山区役所の大井葉月委員である。

### 大井委員

よろしくお願いします。

### 司会

続いて、大竹莉瑚委員である。

### 大竹委員

よろしくお願いします。

### 司会

オンラインで御出席の杉田委員と安野委員は、音声トラブルのため後程御紹介させていただきます。

続いて、株式会社メルカリの三川夏代委員である。

### 三川委員

よろしくお願いします。

### 司会

続いて華道家、写真家の池坊専宗委員である。

**池坊委員**

よろしくお願いします。

**司会**

続いて、京都市環境政策局の田口成人委員である。

**田口委員**

よろしくお願いします。

**司会**

続いて、株式会社 SOU 代表取締役の仲田匡志委員である。

**仲田委員**

よろしくお願いします。

**司会**

続いて、茶道総合資料館副館長の伊住禮次朗委員である。

**伊住委員**

よろしくお願いします。

**司会**

本日、EVER 株式会社 代表取締役の都地委員は御欠席である。

## **2 議事**

### **(1) 資料説明及び第 1 回京都市総合計画審議会の結果報告**

**司会**

続いて議事の 1 つ目、資料説明及び第 1 回京都市総合計画審議会の結果報告に移る。

- 事務局から資料 4 「第 1 回京都市総合計画審議会資料」について説明

**司会**

資料 4 のうち策定方針について御意見のある方は手を挙げていただきたい。

——挙手なし——

## (2) 京都のめざすまちの姿等に関する議論（グループ討議）

司会

続いて議事の2つ目、京都のめざすまちの姿等に関する議論に移る。

○ 司会から資料7「京都のめざすまちの姿等に関する議論の進め方」について説明

司会

資料7について御質問等ある方は手を挙げていただきたい。

仲田委員

今回は京都らしさについて議論し、それらの中から継承していく京都らしさを絞っていく作業であると理解したが、京都らしさを継承すべきとなった背景を伺いたい。

司会

継承していける京都らしさがあるのであれば、それは何かということをもまず議論すべきではないかと考えている。京都らしさに集約して考えるというより、今我々が共通で持っている京都らしくて良いと思っている部分は何かを集合知として集めるために、京都らしさから議題するという狙いである。

仲田委員

京都らしいことを話していくと継承すべき何かが見えてくるという仮説で話してよいのか。

司会

御見込みのとおりである。当然これからの時代に向けて足りていない部分も出てくるであろうし、京都らしさと思っていたが、それほど重きはないのではないかという議論をしてもよいのではないかとということで、3つのテーマに分けさせていただいている。

それでは、各テーブルにおいて準備出来次第、討議を開始していただきたい。

各テーブルの議事録は別紙1～別紙3

——グループ討議了——

司会

各テーブルにおける議論を共有させていただく。

その前に、音声トラブルにより御紹介できていなかった杉田委員と安野委員からひと言御挨拶をいただきたい。まず杉田委員お願いします。

## 杉田委員

このプロセス自体に価値があるので、議論の様子を公開し、多くの方に聞いていただきたいと考えながら参加していた。

## 司会

続いて安野委員にお願いします。

## 安野委員

エンジニアや SF 作家などとして活動している。私は京都に住んでいないので、外部からの意見ということで、いろいろお話しできたと思っている。

## 司会

それでは、Aテーブルから発表をお願いします。

## Aテーブルファシリテーター

Aテーブルでは、京都らしさと、京都らしさを損ねているものについて議論した。左の青色付箋が京都らしさについてである。

まずは、伝統的な暮らしを体験できる、暮らしの近くに歴史があるというような町の話が出てきた。日常に歴史が共存している、それはインスタントではない文化がきちんとあるということであるといった話が挙げられた。これに近いが、場所として、鴨川や喫茶店といった人と緩く繋がることのできる場があることも京都らしさであるという意見が出た。

そして、人との関わり方として、個人が生き生きとしているとあるが、圧倒的な京都に対する自意識がありつつも、人と程よい距離感を保つことで、結果的に自営業や様々な人が生き生きとして、まちが信頼でつながっているというワードも出てきた。

それから文化についてである。新しいカルチャーを生み出せるというキーワードも出てきたが、本物に触れられるまちだからこそ、どんどん目が肥えていき、そこから新しいカルチャーが生み出されて、文化がどんどん循環していくのではないかという話も出てきた。

最後にコミュニティについてである。小さいコミュニティが有機的に連動しているとあるが、鴨川で日焼けしている人や、自然が溶け込むまちというキーワードが挙げたが、いろいろな人たちが、いい意味で、小さいコミュニティで連動していて、その人たちが認め合って、溶け込むまちが京都らしさではないかという議論が出た。ここまでの京都らしさについての議論である。

京都らしさを損ねているものに関しては、先ほどの議論とは逆で、歴史のある町並みの保存について、空き家活用がそこまでうまくなかったり、新しいものを取り入れようとして、いわゆるインスタ映えのようなところに走ってしまったりして、今の歴史のある町並みの保存がうまくいっていないのではないかという議論が出てきた。

また、閉鎖的なコミュニティについて、終盤にかなり議論した。外から見ると閉鎖的であるが、信頼を基に積み重ねたからこそ、コミュニティとして溶け込めるということでも

あるという意見が出るなど、行ったり来たりしながら議論をしていた。

オーバーツーリズムについても中盤に大きく出てきたが、観光客が増えている中で、システムがアップデートされ切れておらず、受け入れ体制の全体設計にまだまだ課題があるのではないかという意見もあった。

また、それに対して、成長戦略の限界と書いているが、まちづくりに対して、新しいことをどんどんつくるだけではなくて、まちの人にきちんと浸透させるなど、その時代に合わせた成長戦略にしていくべきだという話が出た。

最後に、学びの場の話が出たが、大学や学生が多いことに強みがある一方で、そういった学びの場において、古いものと関わる機会や、若い人が文化に触れる機会がまだまだ少なく、結果的に学びの場がつまらなくなっていて、若者の京都の文化に対する意識が損なわれているのではないかという話が出てきた。観光客の話も出たが、全体的に外から入る人と市民の方との共存や、そのバランスが大きく議論されたポイントであった。

## B テーブルファシリテーター

Bグループでは、まず価値に関する議題が挙がった。伝統や鴨川も含めて、これまでずっと変わってこなかったものを受け入れるようなところが京都にはあるのではないかという意見が出た。そこから、価値の再発見や再規定、価値の創造、また、その価値を巡らせるようなところまで、京都の人は行っているのではないか、それが京都らしさではないかという議論になった。

例えば、元々あるものを新しく見立てていき、価値を再発見することや、その見えない価値を価値と捉えて評価して、支援すること。それがスタートアップマインドになっているのではないか。そのような自分なりの美学を持って、この価値を巡らせているのではないかという意見が出た。

一方で、共存や共生のような意見も多く出た。まちとして、とてもにぎやかな場所から静寂な部分があるといった動と静の共存や、Aテーブルでも出ていたが、鴨川でいろいろなことをしている人が多いなど、自分を見つけられる、共存できるというような意見も出た。他にも自然との共生も京都らしさになくてはならないものではないかという議論があった。

この価値や共存を両立していくところに関して、個人の気持ちの部分であるが、持ちつ持たれつの精神や、余裕と余白を持って、緩やかなまとまりを持っているといった精神があるのではないかというような議論もあった。責任や規律を持つことで、これらの価値が普遍のものとして続いているところが京都らしさではないか。

その中で、京都らしさが損なわれているところについては、オーバーツーリズムなどの観光と暮らしやすさを両立しづらいという意見であった。また、地元住民を重視しているのか、中心に考えているのかどうかということに関しても、今後議論していきたいという意見が出た。

また、京都らしさの議論で出てきた共生や共存が失われているというところに関しては、まちが均一化されてきており、地域独自の場所がなくなっているなど、資本主義が優先され、いろいろなものが受け入れられる土壌がなくなりつつあるのではないかという議論も

あった。

中でも印象的だったのは、京都が消費される資本になっているのではないか、大衆化されているのではないかといいたワードである。そのような中で、今後、京都がどのようなになっていけばよいのかということについても少し議論を膨らませた。例えば、京都に入ってきて出ていく人も価値を残していけるような京都になっていけばよいのではないかという意見が出た。

## 司会

B テーブルの議論に関して、感想や補足等あればお願いします。

## 伊住委員

「消費」という言葉には感嘆した。私はどのテーブルにおいても一貫して、住んでいる人と出入りする人が互いに良い関係でなければいけないという話を自分の中でのテーマにしていた。観光で来られる方が、消費者にかなり得ない状況がやはりある。観光客だけでなく学生も含め、京都市生まれではないが、一時的に住む人や、一時的に京都というまちに愛着を持ってくださる方々が、単なる消費者ではなくて、京都に何かを残していつてもらえるような仕組みが必要。

今は、おそらく消費することしか京都を愛するという方法がない、もしくは少ないから消費者にしかなくなっておらず、観光客が増え過ぎて困るというような議論にしかならないと思う。

そのため、来てくださった方々が京都のまちづくりに参加できる仕組みのようなものを、京都市に住んでいる人間や京都市役所がきちんと考えていくことで、関わることのできる接点を、もう少しいろいろな領域につくればよいのではないかと思いながら聞いていたので、消費というキーワードが出てきた時は、なるほどと思って聞いていた。

## 仲田委員

私は京都の大学を出て、京都で商売をさせていただいているが、京都で何かを得たことに対して、それを消費してすり減らすのではなくて、むしろそれを戻していったり増やしたりしていけるような大本になる資本を、京都という何かから頂いているという感覚を持っている。

私がなぜ京都で根を下ろして商売したいと思ったかという、頂いたものをどのようにまちに還元していくかという気持ち、を気付いたら頂いており、それを磨いていけたらよいと思ったからである。お客さまや観光客の方も消費するのではなくて、どう還元していけるか、もしくはそういった仕組みづくりの部分の問いを頂いていたのだということを再確認した。

## C テーブルファシリテーター

C グループは、「2050 年に京都市民が愛し、世界の人に誇りと憧れをもってもらうまちとなるために必要なことは何か」という問いである。最初にそもそも京都が目指す豊かさとは何か、憧れられるということを本当に目指すのかというような根本的なところまで、

皆さんの視点を深めていただき結果、きれいに集約されたというより、すごく分散的な意見が集まったと解釈している。

象徴的で盛り上がった話題を中心に共有させていただく。1つ目は観光客とどう向き合うかという点である。伊住委員から、観光客を関係客にし、関係を作る良い機会として捉えてもらうのが良いのではないかという意見があり、議論が活性化した場面があった。観光客として捉えると京都という資源を消費して終わってしまうが、京都を通して、例えば町に残っているものもそうだし、京都という空間で大学4年間を過ごすことに近いかもしれないが、都市のスクリーニング機能を京都は持っているのではないかという議論になった。京都を通して、そこで誰かと関わったり、何かを生み出したりという体験を提供することで、また還元されていくのではないかという意見があり、ここに関しては、非常に盛り上がった。

そこに安野委員のデジタルデモクラシーという議論が加わり、京都市民は誰なのかということ、京都というスクリーニングを通ったすべての人も例えば0.1京都市民のように捉えて含めると、その方々が全国や世界に散らばっていたり、そのように関係をつくっていくことの場が京都なのではないかという議論に発展した。

2つ目は手放すという点である。発想の転換だと思ったのが、これからの京都の中につくっていくものや、築いていくものは何なのかということではなくて、京都の2050年を考えた時に、本当に必要なものは何かを見極めるために、要らないものを手放していこうとか、ないということに価値を考えるようにするのはどうかという意見があった。この話から、計画を策定する場だと認識しているが、むしろ無計画のほうが京都に合っているのではないかなど、無計画をデザインするといったキーワードが出てきて、重要な視点だと思った。

3つ目は、一見さんお断りというのは、ポジティブなことなのかネガティブなことなのかという議論である。京都らしさの1つに都市の奥行きが挙げられる。京都の顔といえば寺社や和食かもしれないが、そこだけではない。普通に京都に住んでいて、そこで生まれているカルチャーがあり、受け継ぐだけでなく、消費されて変わっていくというものも含めて、京都には違う顔があるという意見が出た。そういったものも、京都らしさとして残した方がよいし、京都の持っている奥深く、閉じたものをオープンにすべきなのか、閉じたまま守っていくべきなのかという議論の中で、秘密結社というキーワードが出てきた。秘密結社が似合う京都を大事にすべきかどうかというところは、一つ議論になった。

他にもリジェネラティブシティーへの転換ということで、マルチ・スピーシーズ・モア・ザン・ヒューマンの観点で、これから京都に限らず、地球で目指さなければいけないテーマである。例えば微生物も市民と捉えていくような京都市の在り方もあるのか、そういったことを先んじて京都がやっていくのも面白いといった意見が出た。

基本的には、計画に対して無計画、多様性を認めようというのをすごく大事にされた意見が多かったと認識している。



## 西田都市経営戦略監

私も中に入って、一緒にいろいろな意見を出し合いたいと思いながら、楽しく聞かせていただいた。杉田委員がおっしゃっていたように、このプロセスが今までとは異なる形で、非常にアクティブにうまく進んだと思っている。

第2回審議会では、総合計画審議会委員の皆様も交えて、本日のように議論していただきたいと考えている。どのような議論になるか楽しみにしているが、このようにいろいろな意見を出し合い、それを言語化することはやはり重要だと思ったし、私自身に刺さる視点や価値観、キーワードが数多くあった。改めて感謝申し上げる。今後も引き続きよろしくお願いします。

### (3) 事務連絡

## 司会

それでは、以上をもって第1回京都市未来共創チーム会議を閉会する。

## 3 閉会